

福 井 県 医 師 会

だより

第577号 平成21年(2009)7月



名護の海岸 鯖江市 久保田 紀彦

表紙写真説明：名護の海岸

鯖江市 久保田紀彦

名護の海岸・沖縄諸島は、小松から那覇への直行便が毎日運航されている身近な地域である。真夏の名護の海岸は、真っ白なサンゴ礁の砂浜と紺碧の海の色が美しく、メキシコのアカプルコを彷彿させる異国情緒に満ちた風景であった。2000年に8首脳サミットが開催され、俄かに日本中で有名になった所で、那覇空港から高速道で連絡されている高級リゾート地である。

醫 縫 録

福井市医師会の活動と地域医療

福井市医師会長 加 畑 雅 行



福井市医師会は、明治22年4月1日福井市政施行と同時に、福井市医師組合として設立されて現在に至り、今年で設立120年となります。医師会員は、現在A会員182名、B会員218名、免除会員42名、合計442名で、この10年間にほぼ450名内外で推移しております。

私は平成20年4月に会長を拝命しました。それまでは、本会の中央ブロック長(参与)や県医師会の会計担当理事などを経験させて頂きましたが、未だにわからない事柄もあり、諸先輩の先生方に、ご教示いただいている次第です。

さて医師会活動の目的は、地域社会の保健衛生と医療、福祉の増進に貢献することにあります。本会では、平成13年度より“市民の方々と同じ目線に立ち、身近な病気について語り合う”をコンセプトに「市民公開講座」を毎年開催しており、今年で8年目になります。毎回多くの参加者があり、たいへん好評を博しております。また高齢化社会が目前に迫っている福井市にとりまして、認知症の予防および早期発見は時を待たない課題であると考え、平成17年度より「もの忘れ予防検診」を行っております。この検診の特徴は、正常と認知症のあいだの軽度認知障害(MCI)を見つけ出すことにより認知症を遅らせたり、防ぐことを目的としていること。もう一つの特徴は専門医が中心ではなく「かかりつけ医」の先生方が中心に対応していることです。

その他、母子保健、乳幼児健診、予防接種、各種健診、高齢者保健福祉事業、介護保健等の事業を福井市から受託し、地域医療の確保に努め、保健福祉行政に協力しております。

次に本会が運営しております事業は、看護専門学校、臨床検査センター、休日急患センターがあります。看護専門学校は平成14年4月に開校しました。これまで担当理事、講師の先生方のご尽力と教職員の努力により4年連続して、看護師国家試験100%合格という大変優秀な成績をおさめることができました。そして卒業生の殆どが福井市内の臨床現場で活躍しております。しかし少子化の影響もあり、志願者や入学者が年々減少傾向となっ

ております。来年度からは学生募集要項を検討し、受験しやすいものに変える予定でおります。看護師の養成は財政的には厳しい状況ではありますが、地域医療を支えるためにも、ぜひとも必要でありますので、行政や県医師会、会員の先生方のご支援、ご協力をお願いしまして続けていきたいと思っております。

臨床検査センターは、昭和42年に設立し、会員の医療機関などからの臨床検査をおこなっております。また特定健診、特定保健指導や学校健診、教職員健診、職域健診なども行っております。職員は臨床検査技師が11名(うち2名は細胞検査技師)、事務職5名、集配等の臨時職員6名、計22名がそれぞれの業務に取り組んでおります。

福井市休日急患センターは、平成4年度より福井市から管理運営を受託し、業務委託契約により運営しています。診療日時は、土曜日夜間(午後7時から翌朝午前6時まで)と日曜・祝日の昼間(午前9時から午後6時まで)です。

診療体制は、土曜日、医師2名(内科、小児科各1名)、看護師3名、薬剤師1名、放射線技師1名、事務員2名、宿直員1名。日曜・祝日は医師2名(内科、小児科各1名)、看護師5名、薬剤師2名、放射線技師1名、事務員3名で業務に取り組んでおります。年末年始(12月29日から1月3日まで)と5月の連休、8月の旧盆の3日間を祝日に加えて、年間127日前後、先生方に出務して頂いております。

患者数は平成17年度、18年度は年に3千人台でしたが、19年度からは4千3百人余りで5百人近く増加しております。また千人近く(22%)が福井市以外からの受診者でした。これは休日急患センターの知名度と役割が定着したことによるものと喜んでおります。

これからも、地域住民から信頼と支援を得られるように、地域医療の充実に努めるつもりですので宜しくお願い申し上げます。